

令和6年度の重点目標

1 めざす学校像

「安心して安全に生活でき、一人一人が力を発揮できる学校」

重点目標

1 生徒に寄り添った指導

- ・自分を大切にできる心、人を思いやる心、感謝する心を育成する。
- ・生徒指導上の問題の早期発見、早期対応に努め、学校として組織的に対応する。
- ・保護者と問題を共有し、関係機関等との連携を深める。

2 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善

- ・タブレット端末の活用などICT教育を推進し、自ら課題解決に臨む態度を育てる。
- ・言語活動を充実させ、社会生活に生かせるコミュニケーション力の向上を図る。
- ・生徒一人一人が十分に思考し、他者との対話の中で解を導く力を高める。
- ・PDCAサイクルに基づいて指導と評価を繰り返し、基礎学力の向上と定着を図る。

3 生徒の適性を重視したキャリア教育

- ・個々の障害や発達段階に応じたキャリア教育を実践する。
- ・多様な進路希望に対応できるように、情報の収集と発信に努める。
- ・多様なニーズに応じ、社会に開かれた教育の拡大と発展を図る。

令和6年度の学校評価重点目標及び中間評価

各校務において、年度当初に立てた具体的方策の実施段階にあり、今後、行事等の実施を踏まえて目標達成に向けた取組を進めています。

今後、11月に実施予定の保護者アンケートの結果や、2月に行われます学校関係者評価委員会のご意見も踏まえ、教育活動の更なる充実に取り組んでまいります。

部・校務	重点目標	具体的方策	留意事項	中間報告
中学部	・課題解決に向けて生徒が支え合い、話し合う授業づくり	・タブレット端末の活用や言語活動の充実を図り、他者との会話等から新たな学びを得られる機会をより多く設定する。	・生徒の課題に対する興味・関心を高めて自ら取り組めるようにする。 ・生徒の理解度を適宜確認し、学びが深まるように工夫する。 ・さまざまな表現方法を知り、コミュニケーション力の向上を図る。	・総合的な学習の時間では、生徒が興味・関心をもって取り組める内容を設定することによって意欲的に取り組む様子が多く見られた。 ・各教科生徒の理解度に合わせて学習活動を工夫し、言語活動を通して他者から学んだり、考えを深めたりする機会を設定することができた。

部・校務	重点目標	具体的方策	留意事項	中間報告
高等部	・思考力や表現力を育てる授業づくり	・社会的自立に向けて、外部関係機関との連携を深めたり、ICT機器を効果的に活用しながら学び合ったりする授業を行う。	・生徒が社会とのかかわりを意識できるような授業展開や活動を行い、評価していく。	・部研究をとおして、各自の授業で「思考力や表現力を育てる授業展開や活動を取り入れていくこと」を共有した。実際にICTを多くの職員が活用し、学び合いや話し合いを中心とした授業が行われている。今後は、各実践を共有し、改善点などを話し合っていく。
総務部	・保護者への情報の発信、共有と、PTA活動の充実	・役員会や懇談会等にて保護者への情報伝達、情報交換を行い、その内容を踏まえ、よりよい学習環境の構築を図る。 ・見やすい掲示板のレイアウトを工夫し、情報を伝える。	・メールを活用し、保護者との情報交換を密にする。 ・情報を精選し、定期的に学校掲示のレイアウトを見直す。	・マチコミや総務メールで保護者に情報を早めに伝え、情報を共有できた。 ・役員会で役員選出の申し合わせ事項の検討をするなど、話し合いの内容を充実させることができた。 ・学校掲示について、担当と連携し、見やすいレイアウトを心がけている。
教務部	・生徒の家庭でのICT機器の活用方法の集約	・家庭学習やプリント学習時の課題においてタブレット端末を活用できる取り組みを考える。	・教科、学科に依頼し、さまざまな実践内容やアイデアを集められるようにする。	・中学部重複障害学級の一部の学級で、保護者とのやりとりを従来の紙媒体での連絡帳ではなく、タブレット端末のチームズにて試験的に開始した。 ・保護者から意見を聞いたり、連絡帳としての機能だけではなく、重複障害学級の生徒自身が行える課題を提示したりしていくことを考えている。
教育情報部	・ICTを活用した学校全体の業務改善や効率化の推進	・ICT支援員を効果的に活用し、専門的な知識を得られるようにする。 ・学習支援サービスの活用に関する学習会を開催する。	・非常勤講師に対するICT機器の研修方法を検討する。 ・各校務分掌や職員のニーズを元に必要な支援を行う。	・夏季休業中にロイロノートやTeamsの学習会を複数回行った。職員が必要な知識を得る場となった。 ・ICT支援員の来校日を周知するとともに、専用の部屋を用意することで、些細なことでも質問できるような雰囲気を作った。

部・校務	重点目標	具体的方策	留意事項	中間報告
生徒指導 支援部	<ul style="list-style-type: none"> 実践的な訓練や活動の計画、実施、及び、教職員、生徒の防災意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の消防局や消防署と連携し、体験的な訓練を実施する。 安全や防災に関連する話題を定期的に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 講話だけではなく、考える活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際の災害時を想定して避難経路を一部封鎖するなど、訓練内容を工夫した。参集後の生徒・職員の点呼、人員報告について課題が挙げられたため、より迅速に確認ができるように、手順等の見直しを進めている。 生徒集会で防災等の話題を定期的に取り上げ、生徒同士で対応等について話し合う時間を設けることで、生徒については意識の向上が見られる。教職員については、前述の訓練内容等の見直しにより、更なる意識向上を図る必要がある。
進路 指導部	<ul style="list-style-type: none"> 進路情報に関する教職員、生徒・保護者への周知の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導の手引きを見やすい形に改訂し、手引きの存在を改めて周知する。 事業所見学会の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係事業所にも協力を仰ぎ、情報収集に努める。 note等snsでの進路情報発信も可能な範囲で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 手引きの改訂については、各担当で進めており、準備ができ次第改訂版を公開予定である。また、各企業からの連絡については速やかに学年に伝え、周知を徹底している。保護者向けの連絡については、配信メールを活用して連絡を行っている。 見学会については、計画中のため、まだ実施できていない。
保健 体育部	<ul style="list-style-type: none"> けがをした時や体調が悪い時の相手への正確な状況の伝達 災害時などを想定した、自分だけではなく周囲の状況の正確な伝達 	<ul style="list-style-type: none"> 保健室に来室した際の来室記録は、生徒が振り替えられるよう正確に記録するよう伝える。 防災訓練時、状況を正確に伝えられるよう引き続き訓練をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 来室記録は、けがの部位や起きた時の状況等を正確に記入するよう促す。 昨年度の反省を生かし、充実した訓練を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 来室記録の記入については、どの生徒も慣れてきた様子が見られてきた。 意思疎通訓練の実施をする。高等部の生徒が対象であり、昨年度の反省を生かした訓練の実施を目指している。

部・校務	重点目標	具体的方策	留意事項	中間報告
自立活動 研修部	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員全員の手話のスキル向上と聴覚障害教育の専門性を高める研究・研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員相互に授業参観をし、相互に学び合う。 ・校外の専門家を活用し、研究・研修会や学習会の充実を図る。 ・校内外の研究・研修会や学習会を周知徹底し、積極的な参加を促す。 ・手話表現や授業、研修会などの動画資料を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観後は、各教科・学科で授業研究を行う。 ・タブレットPCを活用し、聴覚障害に関する情報提供を行う。 ・経験の長い職員からノウハウを継承できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員相互の授業参観の年間予定を作成。計画に従って、順次授業参観を実施している。 ・全職員を対象に東海地区聾教育研究会へのリモート参加を実施した。 ・外部の専門家を招き、手話講座、発音指導に関する講演会を実施した。 ・経験の長い職員が講師となり、校内で手話学習会を実施している。 ・教育情報部と連携して、研修動画を作成している。

いじめ防止に向けた取組（生徒指導支援部）

重点目標	具体的方策	留意事項	中間報告
<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの早期発見と認知、及び、組織的な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・年に3回、生活アンケートを実施し、生徒の心情の変化を把握する。 ・生徒情報を積極的に共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重大事態に発展しないように、迅速に対応する。 ・個人情報の取扱いに留意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週、情報交換会を行うことで、生徒に関わる情報を迅速に共有することができている。また、必要に応じてケース会や生徒支援委員会につないでおり、重大事態に発展することを防ぐことができている。

多忙化解消に向けた取組

重点目標	具体的方策	留意事項	中間報告
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の協働した業務による、仕事の効率化や在校時間の更なる縮小 	<ul style="list-style-type: none"> ・主任を中心に各部署での同僚性を更に高め、学年や校務分掌、教科等で協働するとともに、校務支援員を効果的に活用する。 ・月の平均施錠時刻や在校時間について、定期的に管理職、運営委員会で提示し、現状把握や改善点の検討をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力を仰ぎやすい雰囲気づくりに努めるとともに、意識的に声を掛け合う。 ・持続可能な改善となるように、学校の状況に即したものと 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数担当にしてサポートし合えるようにする、データや資料を共有する、メッセージ機能やアンケート機能を活用するなど、各部署で業務改善に取り組んだ。 ・委員会等で現状把握をしたり、計画的に業務を行うよう声をかけたりした。 ・月の平均施錠時刻は昨年度と比べて平均して約15分程度早まっている。在校時間についても昨年度と比べて短くなっている。しかし、一部の職員は在校時間が長い傾向があるため、更なる意識向上を図る必要がある。

